

博物館

No.124

2021年9月10日発行

ニュース

このえまもり
九重守 (部分)おまもり
長さ10メートル以上になる御守!

九重守は巻物状の御守です。縦は数センチですが横は長さ1メートルから数メートル以上になる物までいろいろあるとされています。仏像のほか、曼荼羅、眞言がたくさん表されています。作られた時期や、発給元でかなりのバリエーションがあるとされます。写真の九重守の長さはおよそ12メートルあり、巻末に慶安元年(1648)と記されていました。370年あまり保存されていた貴重な御守です。

企画展「徳島おふだコレクション～はらいたまえ きよめたまえ～」では、徳島県内で保存されていた珍しいおふだを一挙公開する予定です。
(民俗担当：庄武憲子)

藍染めを楽しもう

小川 誠

1. はじめに

徳島県のみなさんにとって藍染めはなじみの深い言葉です。筆者はみなさんに、植物に興味を持ってもらえるよう、紙漉きや草木染めなどを初心者でも簡単にできるように改良し、普及行事を実施してきました。藍染めについては、技術的に難しいという印象があり、これまで普及行事などでは行ってきませんでしたが、比較的簡単にできる方法を見つけたので紹介します。

2. タデアイを育てよう

藍染めの原料は、タデ科の一年草のタデアイという植物です。タデアイのタネは園芸店に売られていますが、人気があり品切れのことも多いので、ネット通販を利用すると簡単に入手できます。春にタネまきをし、本葉が3～4枚になったものを植木鉢や畑に移植します。その際、ホームセンターなどで売られている、野菜や花の栽培の用土(10リットル)の袋を使うと便利です。そのビニール袋の上部をハサミで切って折り返し、底の部分に針金などで穴をたくさん開けます。それに苗を植えると、植木鉢などの準備がいりません(図1)。

栽培で気を付ける点は、水と肥料をたっぷりやることです。



図1. タデアイの袋栽培。

3. 染色方法

藍染めの染料であるインジゴは、タデアイの花が咲く前の時期が最も多くとれるといわれています。7月中旬～下旬に葉を茎ごと収穫します。それらを鍋に入れ、茎や葉が完全につかるくらい水を入れます。鍋の中の水が50℃になるまで熱

し、30分ほど50℃を保ちます(図2)。このとき、温度が上がりすぎるとうまくいかないのので、保温機能があるIHヒーターを使うと便利です。



図2. IHヒーターで50℃に保つ。

しばらくすると、エメラルドグリーン^ニの液ができ、ザルなどで濾して余分な葉をとりぞくと、抽出液^{ちゅうしゅつえき}ができます(図3)。



図3. できた抽出液。

次に、水で満たしたバケツに消石灰^{しょうせっかい}を入れ、よくかきまぜて一晩以上放置します。その上澄み液^{うわすえき}(石灰水)をボールに入れて、その中に木綿の布^{しほ}をひたします。布を絞り、抽出液につけると、布が青色に染まります(図4)。その際、布にしみついた石灰水と抽出液が反応して染料のインジゴができ、布が青く染まります。



図4. 石灰水にひたした木綿の布を、抽出液に入れる。

抽出液に5分くらいひたして、布をよく絞り、新しい石灰水にひたします。再度その布を絞り、さらに新しい抽出液につける作業をくり返すと、布はより濃く染まります。最後によく水洗いして乾燥させます。

今回は、ビー玉を布にくるんで輪ゴムでとめ、抽出液が浸透しないようにして絞り染めを行いましたので、布に濃淡の模様ができました（図5）。



図5. 染まった布。

使った抽出液と石灰水は捨てずにまぜて、ペットボトルにいれておきます。すると、インジゴの青い色素が底にたまるので、それを集めておくと化学染めなどに使えます。

4. インジゴができる原理を調査中です

上記の染色方法を思いついたのは、去年の夏にタデアイの葉を水とともにペットボトルに入れて、日光のもとに放置していたことに始まります（図6）。



図6. タデアイの葉を水につけて日光の当たる場所に放置。

数日置いた水（抽出液）が、エメラルドグリーンになっており、それがなんとなく蛍光を発しているように見えたので、ブラックライトを当ててみました（図7～8）。抽出液は明るい青白い蛍



図7. 図6で得られた抽出液（左）と水（比較用）。

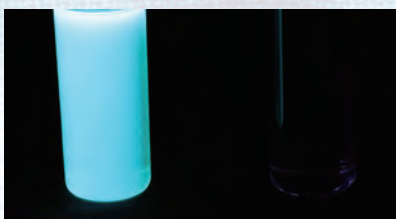


図8. 図7にブラックライトを照射。抽出液（左）は強い蛍光を発する。

光を発していました。筆者はいろいろなものにブラックライトを当てて蛍光を観察していますが、いままでにあまり見たことがない蛍光で驚きました。

さて、その抽出液ですが、石灰水を入れるとインジゴができることがわかりました。さらに、石灰水を入れてインジゴができた抽出液では、図8の蛍光は消えてしまいます。蛍光とインジゴの生成は何か関係がありそうです。

試したところ、石灰水の代わりに重曹水じゅうそうすいを入れても同様の結果になったことから、アルカリ性であることが重要ではないかと思いました。そこで、アルカリ性の石灰水に布をひたして、抽出液に入れたら布が染まるのではないかと思い、やってみたらそのとおりでした。

また、日光があたらない曇りの日が続くと、タデアイを入れたペットボトルには茶色い液ができ、石灰水を注いでもインジゴはできないことがわかりました。その原因は、温度が関係していると思い、加熱する方法に切り替えて、試しながら現在の方法にたどりつきました。ただし、どのような原理でインジゴができ、染色されているのかは、はっきりとわかっていません。

5. 終わりに

藍染めの方法はいろいろあります。染すくもを使う方法や化学薬品を使う方法、生の葉を使う生葉染めなどさまざまです。藍染めは、葉に含まれているインジカンという水に溶ける物質が、水に溶けないインジゴに酸化作用で変化することで染まるといわれています。今回紹介した例も、その原理だと考えられます。しかし、ぬるま湯で抽出した液にアルカリ性溶液をまぜるとインジゴができることや、抽出液が蛍光を発することなどは、今まであまり聞いたことがありません。また、抽出液をとる方法も、どの温度や時間が最適なのか検証できていません。草木染めでよく使われる草木灰そうもくばいを用いたアルカリ性の溶液を使うと、色合いが変わるのかということなど、まだまだ、検証が必要ながたくさんあります。たくさんの発見ができるので、みなさんも藍染めにチャレンジしてみませんか？

（植物担当）

徳島おふだコレクション

～はらいたまえ きよめたまえ～

おふだは、神仏の守護によって災厄や病難を、防いだり除いたりすることができる信じられているものです。神社や寺院で配布されるほか、かつては修験者や御師と呼ばれる人たちによって家々に配られることもありました。人びとは日々の平穩無事を願い、受け取ったおふだを、家の門や戸口、柱、天井などに置いたり貼り付けたりしてきました。

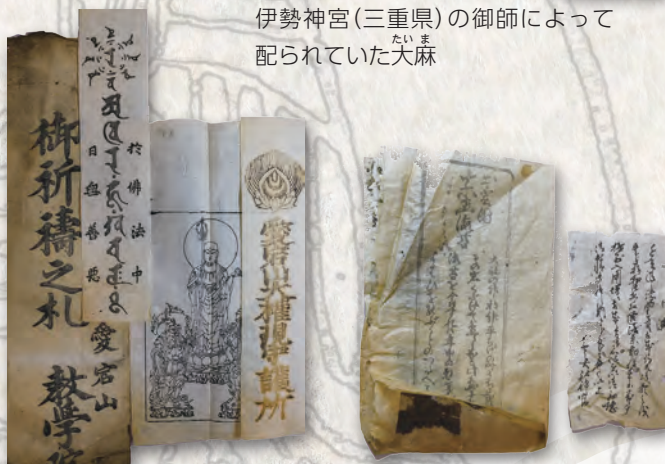
徳島県内には、受け取ったおふだの数々を、家を守るものとして代々保存していた例が多く見られます。当館には、そうしたおふだが千点近く寄贈され、コレクションを構築しつつあります。コロナ禍に見舞われた昨今、館蔵のおふだを一挙公開し、古くから今なお続く、人びとの日常の平穩無事を願う姿をふりかえります。

展示構成とおもな展示資料

- (1) おふだとは
- (2) 徳島市名東町(元庄屋)に残されたおふだ
 - ・愛宕山教学院、祇園社成就院発給のおふだ
- (3) 鳴門市撫養町(元造り酒屋)に残されたおふだ
 - ・大量の四国遍路納札
- (4) 阿波市土成町(元寺子屋?)に残されたおふだ
 - ・太宰府天満宮発給のおふだ
- (5) 発見!こんなものも残っていた!
 - ・広げると10m以上にもなる最強の御守「九重守」
 - ・出雲大社のおふだに「十六島海苔」
- (6) 現在も見られるおふだ



伊勢神宮(三重県)の御師によって配られていた大麻



愛宕山教学院(京都府)から発給されたおふだ

出雲大社(島根県)の御師によっておふだと一緒に配られていた十六島海苔

大量に保存されていた四国遍路納札



太宰府天満宮(福岡県)のおふだ

2021.10.15(金)～11.21(日)

会場 徳島県立博物館 企画展示室(1階)

開館時間 9:30～17:00

休館日 月曜日

観覧料 一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円
※各種減免あり

展示解説

日時: 令和3年10月17日(日) 午後1時30分～午後2時30分

令和3年11月7日(日) 午後1時30分～午後2時30分

会場: 徳島県立博物館 企画展示室(1階) *観覧料が必要です。

えどともがろう 「みとものつら絵巻」に描かれた江戸供家老

— 新常設展の準備の過程から —

江戸供家老は、江戸詰めの家老のことをいい、役職名では江戸留守仕置とよばれます。江戸において藩の政治を執り行う立場にあり、留守仕置の下に「近世の外交官」とも称される江戸留守居（笠谷和比古『江戸御留守居役』吉川弘文館、2000年）がいました。

昨年（2020年）、博物館が所蔵する「みとものつら絵巻」に、江戸供家老の行列が描かれていることに気づきました。「みとものつら絵巻」は、13代藩主蜂須賀斉裕が初めて阿波に入国する行列を描いたものです。いわば徳島藩の参勤交代を描いた資料ですが、これまで藩主が乗る駕籠などに注目するあまり、供家老の存在を意識していませんでした。

その存在に気付いたきっかけは、新常設展の準備の過程で、あらためて資料と向き合ったことです。昨秋、新常設展の会議において、「絵巻の人物にセリフをつけましょう」との展示業者側から

の発案に対し、当初はあまり乗り気ではありませんでした。しかし、来館者に少しでも資料に親んでもらえればと思い、美術工芸担当の大橋学芸員と共同でセリフを付ける作業を始めました。いざ行ってみると案外むずかしく、わからない点多くありましたが、大橋学芸員と相談しながら、また館職員の協力も得ながら作業を行いました。その結果、描かれている人物一人ひとりに目を向けることになりました。さらに、参勤交代や大名行列について調査していくうちに、その内容の面白さをも実感することになりました。

また、ちょうどその頃、徳島藩の江戸供家老の日記を紹介した論考（三宅正浩「徳島藩江戸供家老の日記」『日本歴史』872号、2021年）にも接し、武家社会において供家老が果たした役割について再認識することができました。

オープンした新常設展では、「みとものつら絵巻」の展示とともに、その手前には映像コーナーが設けられています。江戸供家老を含め、描かれた人物一人ひとりに注目し、資料の魅力を感じていただければと思います。

（歴史担当：松永友和）

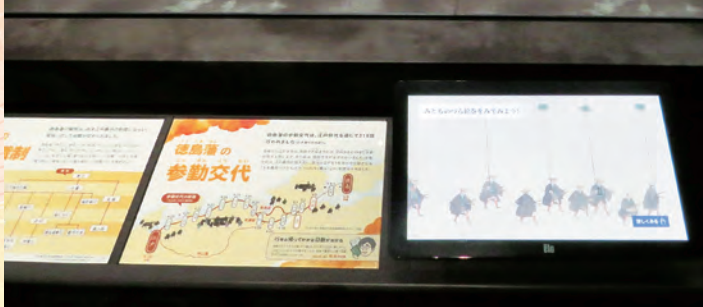


図1 新常設展「近世の徳島」 「みとものつら絵巻」の展示コーナー



図2 「みとものつら絵巻」のセリフ
（こんなことを言っていたのかも!?)

ち かせい どうくつせい
徳島県産地下性・洞窟性の昆虫類標本

地面の下にはすき間がたくさん存在し、そのすき間に挟まるように暮らす生物が知られています。四国は地中のすき間にくらす生物の宝庫で、とくにオサムシ科チビゴミムシ亜科とハネカクシ科のものは種数が多く、世界で四国にしかない固有のグループが多数知られています。四国の地質は複雑な構造をしており、長い間安定して保たれてきたため、移動性が乏しい地下性のチビゴミムシ類やハネカクシ類は、地域ごとに隔離され、独自に進化したと考えられます。

徳島県にも、ケンザンメクラチビゴミムシやリュウノメクラチビゴミムシといった、その名に徳島の地名や洞窟の名が付いた固有種がたく

さんいます。いずれも四国・徳島県固有種で、そこでしか生きられない理由があり、その土地の成り立ちをあらわす生きた証といえるのです。

昨年の夏、徳島昆虫研究会の吉田正隆氏（徳島市）から、徳島県産の地下性・洞窟性のチビゴミムシ類とハネカクシ類の標本を寄贈いただきました。吉田氏は地下性の昆虫を採集するスペシャリストで、独自に考案したトラップを用い、これまでに多数の新種や希少種を発見してきました。寄贈標本には、上述の種のほか、県内各地で採集された大変珍しい徳島県固有種が多く含まれています。今回は、その中からいくつか紹介します。

（動物担当：山田暈崇）



ケンザンメクラチビゴミムシ

Trechiana chikaichii
つぎさん 剣山とその周辺の地中にしか生息していない。

ヒミセメクラチビゴミムシ

Ryugadous awanus
ひみせどう 那賀町の洞窟「日店洞」で発見。日店洞以外では見つかっていない。

リュウノメクラチビゴミムシ

Awatrechus hygrobius
りゅう いわや 阿南市太竜寺山の洞窟「龍ノ窟」で発見。開発によって洞窟が消滅し、姿を消したかと思われたが、付近の地下浅層から確認された。

リュウノイワツヤムネハネカクシ

Quedius kiuchii
りゅうノメクラチビゴミムシと同様、「龍ノ窟」の消滅後、調査によって周辺の地下浅層から見つかった。



徳島で“モラエスの花”と呼ばれる花は、 何という名前でしょうか？

“キバナアマ”です（図1）。この植物は、徳島ではポルトガル人の文筆家ヴェンセスラウ・デ・モラエスが好んだ花として、とても有名です。アマ科の低木で観賞用に栽培されます。原産地はインド東部から中国南部で、主として熱帯域の山地に野生し、日本へは明治初期に渡来しています。高さ1mほどになる小さな木で、だえんしょうとうらんけい楕円状倒卵形の葉をつけ、冬から春へかけて直径5cmほどの黄色い花を咲かせます。

ある日のこと、植物学の論文雑誌を見ていると、このキバナアマのことが書かれているのに気がつきました。読んでみると、キバナアマによく似た別の植物（あしゅ亜種）を発見した、という内容のようです。その植物は、有名な植物学者のロックスブルグにちな因んで、ロックスブルギー亜種とされたようです。

ひょっとしたら、徳島のものにもロックスブルギー亜種が混ざっているのかもしれませんが。そこで、植物に詳しく、博物館の植物観察行事などにボランティアで協力くださっているたなかせつこ田中節子さんといたはゆみこ板羽由美子さんに来館してもらい、博物館の標本と一緒に調べ直すことにしました（図2、表1）。

調べてみると、葉の特徴や花の付き方などから、キバナアマとは異なるものは無さそうでした。ただし、標本は11点のみであり、花の状態も良くはありません。もっと調べたら、徳島にもロック



図1. キバナアマ（田中節子氏撮影）



図2. キバナアマの標本を調べる田中さんと板羽さん

スブルギー亜種があるのかもしれませんが。もしも、ちょっと違う感じのするキバナアマを知っていたらお知らせください。

（植物担当：茨木 靖）

表1. キバナアマと新しく発表されたロックスブルギー亜種の比較

形質	キバナアマ	ロックスブルギー亜種
葉	<small>ふち</small> 縁に沿って <small>きよし</small> 鋸歯がある	縁は多くは全縁。ときに先端付近に鋸歯が出る
葉柄	はっきりと有る	ほぼ柄が無く、基部は茎を抱く
花序	側生または頂生する散形花序	茎頂または葉腋に単生
苞	宿存する	早落性
花冠	縁は全縁で、先端は凹頭	縁は縮れ、先端は凹頭とならない
柱頭	花冠の筒部を越えて伸び出す。 <small>かく</small> 萼よりも明らかに長い。	花冠の筒部程度の長さ。萼と同長。
分布	ヒマラヤの丘陵地帯	ベンガル平原
花期	3～4月	11～12月

シリーズ名	行 事 名	実施日	実施時間	申込	対 象 (定員)	備 考
野外生きものかんさつⅠ ＜動物＞	秋の昆虫ウォッチング	10月3日(日)	13:30～15:30	要	小学生から一般(15)	徳島市内現地集合
野外生きものかんさつⅡ ＜植物＞	中級クラス植物観察会10月	10月24日(日)	10:00～17:00	要	小学生から一般(10)	
	花巡り！植物かんさつハイキング11月 —植物の冬支度を見に行こう！—	11月21日(日)	11:00～17:00	要	小学生から一般(15)	海陽町海老ヶ池 現地集合
	初めての植物かんさつ(冬編)	12月4日(土)	13:30～15:30	要	小学生から一般(15)	同日開催 「ゼロから始める植物学」
みどりを楽しもう・味わおう	どんぐりピザをつくろう★	10月24日(日)	13:00～16:00	要	小学生から一般(24)	
	クリスマスリースに —光る松ぼっくり工作—★	12月12日(日)	13:00～16:00	要	小学生から一般(24)	
たのしい地学体験教室	眉山の地質見学	10月10日(日)	13:30～16:00	要	小学生から一般(20)	徳島市眉山周辺 現地集合
歴 史 散 歩	たんけん！若杉山遺跡	10月17日(日)	13:00～17:00	要	小学生から一般(15)	阿南市水井町 現地集合
ワクワクむかし体験	焼き物をつくろう①(成形)	12月19日(日)	13:30～16:00	要	小学生から一般(20)	①・②セット 材料費300円 (高校生以下は不要) 申込みは、12月9日(木)まで
	焼き物をつくろう②(焼成)	1月16日(日)	9:30～17:00			
ミュージアムトーク	自家製茶と阿波晩茶	11月14日(日)	13:30～15:00	要	小学生から一般(20)	
	ゼロから始める植物学 —植物の名前編—	12月4日(土)	10:30～12:00	要	小学生から一般(20)	同日開催 「初めての植物かんさつ」
	矢野家の人びと —絵師はどんな暮らしをしていた？—	12月5日(日)	13:30～15:00	要	小学生から一般(20)	
企画展関連行事	企画展 「徳島おふだコレクション ～はらいたまえ きよめたまえ～」展示解説	10月17日(日)	13:30～14:30	不要	小学生から一般(20)	企画展観覧料必要
		11月7日(日)				

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。 ◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。(企画展関連行事を除く) ◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。

普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
- ◎行事日の1か月前から10日前までに必着でお申し込みください。
- ◎返信用はがきには、住所・氏名を記入してください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数や申し込み方法を変更する場合があります。詳しくは、徳島県立博物館のホームページをご覧ください。
- ※お問い合わせは、徳島県立博物館まで(電話 088-668-3636 FAX 088-668-7197)

往復はがきの記入例

＜往信の表面＞	＜返信の裏面＞	＜返信の表面＞	＜往信の裏面＞
63 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないで ください	63 〒00000000 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名 (学年・年齢) 3.住所 4.電話番号 (またはFAX番号)

学校教育に博物館を！

徳島県立博物館のもつ資源(もの・情報・人)を、学校教育の場で有効に活用していただきたいと思います。

- 遠足
- 館内授業(博物館で)
- 出前授業(学校で)
- 博物館資料の貸し出し
- 教材研究のお手伝い



火おこし
(出前授業・館内授業)

- 学習内容に関する質問や実験・観察の方法など、何でもお気軽におたずねください。動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、美術工芸の各分野の学芸員がご相談に応じます。お気軽にお電話ください。

※お問い合わせは、徳島県立博物館まで(電話088-668-3636)

特典がいっぱい!! 徳島県立博物館友の会

博物館友の会は、年間を通してさまざまな体験活動を行い、自然や歴史・文化について理解を深めながら、楽しく学んでいます。

個人でも、ご家族でもご入会いただけます。みなさんも参加してみませんか

- 年会費 ・個人会員2,000円 ・家族会員3,000円

(10月以降にご入会される場合、会費はそれぞれ半額となります。)

◆2021年度の行事予定(友の会会員対象の行事です。)

- 友の会行事に参加 10月22日(金) お祭りを見にいこう！
(吉野川市山川町川田八幡神社)
- 友の会の出版物 11月頃 拓本をとろう (徳島県立博物館)
- やミュージアム 12月頃 徳島城跡周辺歩き (徳島市内)
- ショップの商品を、 12月頃 銅鐸をつくろう(低融合金で鑄造体験)
(徳島県立博物館)

※行事名・期日・場所は変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
詳しくは、友の会事務局まで(電話088-668-3636)



夜の文化の森たんけん

上記お問い合わせは、徳島県立博物館まで(電話 088-668-3636 FAX 088-668-7197)